第４回海南市立小中学校適正規模等審議会
議事の要旨

<table>
<tr><td>日　　時</td><td>令和４年１月 13 日(木) 午後７時～午後９時 30 分</td></tr>
<tr><td>場　　所</td><td>海南市役所　２階　第３委員会室</td></tr>
<tr><td>委　員　の
出 席 状 況</td><td>
<table>
<tr><td>添田</td><td>児嶋</td><td>谷所</td><td>熊代</td><td>田上</td><td>有木</td><td>内藤</td><td>坂本</td><td>新田</td><td>田中</td><td>郡</td></tr>
<tr><td>出席</td><td>出席</td><td>出席</td><td>出席</td><td>出席</td><td>出席</td><td>出席</td><td>出席</td><td>出席</td><td>出席</td><td>出席</td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>事 務 局 等
出　席　者</td><td>〇事務局
西原教育長、中野教育次長、藤岡教育委員会総務課長、日高学校教育課長、
岡島教育委員会総務課課長補佐、福田学校教育課課長補佐、
雨乞教育委員会総務課教育企画係長
〇教育委員（関係者）
露峯委員、川村委員、中山委員、嶋田委員</td></tr>
<tr><td>議　題　等</td><td>１　開会
２　議題
（１）海南市における小・中学校の適正な学校規模の基本的な考え方について
（２）学校規模の適正化を図るための具体的方策について
（３）学校規模の適正化を検討する上での留意点について
（４）小規模校を存続させる場合の教育の充実策について
（５）その他
３　その他
※議題の「（２）学校規模の適正化を図るための具体的方策について」以降は、会議時間内に審議に入れなかったため次回の審議会に持ち越し</td></tr>
<tr><td>審 議 経 過</td><td>■議題（１）について、事務局から説明後、質疑応答。
■事務局から次回の開催日程について説明。</td></tr>
<tr><td>質疑応答の
内　容　等</td><td>**■議題（１）海南市における小・中学校の適正な学校規模の基本的な考え方について**
【委員】
「１学級当たりの児童生徒数は適正規模として設定しない」という点については、どのような意味か。
また、「きめ細かな指導を行えるよう授業形態や指導方法の工夫に努める」という点について、具体例があれば提示していただきたい。</td></tr>
</table>

	【会長】 　１点目については、「海南市に設定する権限がない」ということであり、「設定する権限がない」という表記に見直す方が分かりやすいと考える。 　２点目については、既に取り組んでいる事例もあると思われるので、事務局から提示いただきたい。 **【事務局】** 　例えば人的な支援としては、市独自でサポートの講師を任用し、人数が多い学級に配置するなどの取組を行っている。 **【委員】** 　大野小学校の６年生は 38 名だったと思うが、この学級では具体的にどのような工夫を行っているか教えていただきたい。 **【事務局】** 　教科によって学級を２つに分けることで少人数指導を行っている。 **【委員】** 　そのような取組を行っているにもかかわらず、保護者からきめ細かな指導を望む意見が出るということは、支援が行き届いていないのではないか。 **【会長】** 　１学級当たりの人数がどの程度になればサポートの講師を配置するのか。 **【事務局】** 　大野小学校では６年生が 38 名であり、このような学級の場合は、少人数指導を行うことで学習の充実に取り組んでいる。ただ、サポートの講師を多数配置するのは予算面でも人員確保面でも難しい現状があり、そういったことから、保護者の中には「支援が十分でない」と受け止められている方もいると思われる。できるだけニーズに応えられるように考えているが、一足飛びに進めるのは難しい課題である。 　また、1 学級当たりの児童数は来年度から３年生までが 35 人学級となるが、今年度の３年生の中には、昨年度まで 35 人学級として２学級に分けられていたが今年度から 38 人学級で１学級になったところもあり、そういった学年の保護者にとっては「きめ細かな指導が行われていない」という意見に繋がっているのではないかと考えられる。 **【委員】** 　その点について、学校や教育委員会から保護者にきちんと説明しているか。 **【事務局】**

	先ほど挙げた２学級から１学級になった３年生の例では、副担任のような形で教員を１名配置し、ほぼ全ての教科において少人数指導ができるように取り組んでおり、保護者にも理解を頂いていると考えている。 **【委員】** 学習面に関しては保護者も納得していると思う。アンケートにあった保護者の不満については、学習の場ではなく子供同士の人間関係面等における不満ではないかと思う。 **【会長】** 生活指導面については、人数の多寡だけでなく、教員の能力による部分もあり、その点については、子供のサインを見逃さないための研修を継続的に行う必要があるため、学習面だけでなく生活指導面についての表現も付け加える必要があるのではないかと思う。 **【委員】** 「適正な学校規模」の注意書きに書かれている「１学級当たりの児童生徒数にかかわらずきめ細かな指導を行えるよう授業形態や指導方法の工夫に努めること」という内容は適正規模の趣旨と異なると思う。例えば、「可能な範囲で市として教員を加配し、その数値に近づけるよう努める」という表現であれば理解できる。 **【会長】** この点については、「適正な学校規模」に書くことが適切かどうかという問題はあるが、このような意見があったということは出す必要があると思われる。教員を加配したとしても学級の人数を変えることはできないが、「保護者が望む数値に近づける」と書くと、学級の人数を近づけるという意味にも取れてしまうので、「学習場面に応じて加配や支援を行うことで、学習する集団の人数を少なくする」といった表現になるのではないかと考える。 **【委員】** 私も注意書きの内容が気になっており、学校に関わっていない人がこの文章を読むと、先生が何もやっていないような捉え方をすると思う。実際に取り組んでいるのであれば、具体的に書いた方がよいと考える。 **【委員】** 「21～30 人に１人教員を配置し、それを超える場合は教員を加配する」というような表現にすればよいと考える。また、人数が少ない場合においても加配によるサポートが必要な場合があるが、それについては今回の適正規模とは別の話として考えていただきたい。 **【会長】**

	現在、35 人学級に変わりつつある状況でもあり、具体的な人数は書きにくいと考える。また、「児童生徒数にかかわらず」という表現には少人数の場合も含まれていると考えられるが、この注意書きの部分については、様々な思いが込められていて分かりづらい文章になっていると思われる。 続いて、「検討を始める基準」として、まず小学校について、事務局が仮に設定した「５人」という人数について意見を頂きたい。 **【委員】** 南野上小学校は既にこの基準に満たない状況になっているが、これまで学校の在り方について保護者や学校と検討してきているのか。 **【事務局】** 10 年以上前から検討してきている。保護者や地域の意見を聞きながら教育委員会として働きかけた中で、当初は反対意見ばかりだったが、現在はそういった考えから変わってきているような印象を持っている。 **【委員】** 小規模な学校と大きな学校を比べると学力面で差があり、子供たちのことを考えると、早い段階から大人数の学校で学んだ方が良いのではないかという話を聞いた。 **【事務局】** 「人数が少ない学校で学ぶと学力が下がる」ということは検証できていないと思う。一般的に大規模な学校では刺激があると言われるが、自分の力を発揮する場面を与えられず活躍できないというケースもある。教育委員会としても学校としても「小規模だから学力が伸びない」ということはあってはならないと考えている。そのように感じている保護者がいるとすれば、そういう不安があるということだと思われるので、具体的な内容を伝えていく必要があると考える。 **【委員】** 基本的な考え方として、「複式学級が生じる見込みとなった場合は、学校や保護者に不安が広がることが予想される」ということは、教育委員会として「複式学級は駄目である」と考えているということか。 **【事務局】** 複式学級が駄目ということはない。 **【委員】** 北野上小学校でも「複式が絶対に駄目」という考えばかりではなかった。体育や音楽など大人数の方が楽しい授業や道徳のように大人数の方が様々な意見が出て成果を上げられる授業もあり、そういう場面では複式の方が良いという意見もある。ただ、算数や国語で、複式になったときにしっかり勉強でき

	るのかという不安が保護者の間にはあった。北野上小学校は８人と８人という最大規模の複式学級だったため、そういう話になったが、人数が少なくなってくれば「複式の方が良い」と考える保護者も多いと思う。「複式が駄目」という話ではなく、今回の話に限っては「複式でない方が良い」という意見が多かった。 **【会長】** 　複式だから駄目ということではなく、おそらく複式の授業を受けたことがない保護者にとっては、知らないことに対する不安があると考える。そういう意味では、複式になる場合には、「複式になるとどのような形で授業を行うのか」といったことを丁寧に説明する必要があるため、複式になる時点で一度話し合った方がよいと思う。 **【委員】** 　保護者も複式についてのイメージは何となく持っていたと思うが、「具体的にどのように授業をするのか」ということは知らなかったと思われるので、「検討を始める基準」としては、もっと早い段階で保護者同士が話し合ったり学校と意見交換したりする場があってもよいと思う。そういう場があることによって、具体的に検討すべき時期が来たときにスムーズに話を進めることができるのではないかと思う。 **【会長】** 　先ほど事務局からも説明があったように、「見込みとなった」という時期については、出生数を見ながら判断するということになると考える。 **【事務局】** 　０歳から５歳までの人数は把握しているため、その人数を見た上で、複式が見込まれる場合には関係者と協議していきたいと考えている。また、中学校についても小学校の状況から判断できると考えている。 **【委員】** 　塩津小学校は現在休校中だが、全校で 10 人未満となることは休校になる５～６年前から分かるので、おそらく教育委員会とＰＴＡが協議を進めていたと思う。ただ、ＰＴＡの役員が交代する際に引継ぎがうまくできていなかったのではないかと思われ、当時は「具体的に協議している」という話を聞いたことがなかった。最近、自治会の役員になったことで、当時の資料を目にしたが、「地区の中でどのように引き継いでいくか」が非常に重要であると考える。 **【会長】** 　人数の基準については、どう考えるか。 **【委員】**

「５人」という具体的な数字は必要か。事務局がいろいろ研究されて「５人」という数字を出していると思うので、それに対して意見を言うのはおこがましいのではないかと思う。

【会長】

事務局としては、明確な基準がないと主観的な判断になってしまうため、「数字を示していただきたい」と考えているということである。複式学級になり得る人数として「１学年当たり８人」が１つの目安であり、その半分になってしまうと厳しいのではないかという考え方と、小学校の場合はペアで話し合った後にグループで話し合うといった学習をよく行うが、４人の場合はグループを１つしか作れないため多様性がなくなるという課題が考えられる。

【委員】

１学年で５人を下回ると検討を始めるということだが、極端に少ない学年が１つでも出ると検討しなければいけないということでよいか。

【事務局】

第１段階として、複式学級が生じると見込まれる場合には保護者の不安もあるため説明を行うが、複式には複式の良さがあるため、保護者等が「複式でよい」という意向であれば複式のまま継続する。ただ、人数がかなり減ってくると対話的な教育ができない場合もあることから、教育委員会が検討を始めるきっかけとなる最低限の人数を決めていただきたい。

【会長】

１学年だけ極端に少なくなるケースはあまり考えられず、学年の人数が５人を下回るような学校の場合は、継続的に人数が減少しており、今後も減少が見込まれるケースが多いと考えられる。

【委員】

検討を始める基準には「５人を下回る学年が生じた場合」と書かれており、基本的な考え方には「同学年が５人以上」と書かれているため、幅を持たせていると感じた。逆にややこしくなるかもしれないが、「５人」という数字ではなく、「何人以下」や「何人から何人の間」というような形にしてはどうか。

【委員】

私も複式学級で育ったが、「複式が悪い」という考えはなく、良い面もたくさんあると思う。

【会長】

複式学級が一概に悪いと言っているわけではないが、１学年の人数があまりにも減ってくると活発な学習活動ができなくなる。複式学級になった段階で十分に説明した上で「複式学級のまま継続する」という結論になった場合であっても、更に人数が減ってきたときに再度の検討を促すタイミングとして

	「５人」という人数を設定しているが、「５人」に何らかの根拠があるわけではない。人数を設定する必要があるとして、「５人」という数字についてどのように考えるか。 **【委員】** 「４人」ではペアで話はできてもグループで話をするのは厳しく、「３人」になると全く話ができない状態になる。また、「６～８人」になると意図が異なってくるので、どうしても数字を設定するとすれば「５人」に落ち着くのではないかと考える。ただ、子供にとっては「２人」と「３人」のグループになることは友達関係などの面で非常に悩ましい数字だと思う。「３人のグループになったときの１人の立ち位置」といった悩みがきっと出てくると思う。 **【委員】** 具体的な人数については、様々な考え方があるので言いづらい部分があるが、あくまで「いつ検討を始めるか」という基準なので、私個人としては「何人を下回るか」ということよりも「下回る学年が生じると見込まれるときの何年前」という発想が必要と考える。出生数から先行きがある程度予想できるので、「10 年後には５人をほぼ下回る」といったことが分かるのであれば、「下回ったとき」ではなく「下回ると分かった５年前から」といった形で、もう少し早い段階で検討を始めていただきたいと思う。 **【委員】** 児童生徒数のグラフを見ると、５年先には児童数が 1,700 人を下回る見込みとなっているので、教育委員会でも「今後どうなっていくか」ということを把握していると思う。 **【事務局】** ０歳から５歳までの学校別の人数を把握しているので、「今後どのようになるか」については認識している。「検討を始める基準」について再度説明させていただくが、「見込まれるとき」という表現は、概ね５年程度先に入学してくる児童生徒の人数をもとに判断するという考えである。また、人数を設定しない場合は、教育委員会として協議に入っていく時期を判断しかねるため、審議会の中で設定していただきたいと考えている。 **【会長】** 「見込まれる」という表現は、来年の話ではなく５年先ということである。ただ、現時点において、今後の児童生徒数についての周知を徹底できているかという点については疑問もあるので、周知方法について検討していただく必要があると考える。また、基本的な考え方として「少なくとも同学年に５人以上が必要である」と書かれていることによって、「必要か、必要でないか」という話になると考えられるため、「学びの十分な実現が難しくなる」といった

	表現に変えたいと考える。「基本的な考え方に示している学びを実現する上で、この人数を下回ると厳しい」という数字を掲げているということである。 　続いて中学校について検討するが、ケース③については、小学校で５人となっている場合には、複式学級が長年続いており、その間ずっと話し合いを続けているという状況であると考えられる。 **【委員】** 　小学校では「５年後に５人以下になることが見込まれる場合には検討を始める」という話だったが、検討を始めてから５年で統合等が実現できるのか。実現できるであれば、このケースについては問題ないと思うが、「５年で実現できるのか」という不安がある。 **【事務局】** 　小学校の基準で「５人を下回る」という表現について、委員の皆様は「０～５人」と考えて話をされていると思われるが、「０～４人」という意味であり、ケース③については、小学校において検討を行わずに中学校に上がってくるケースとなる。 **【会長】** 　「５人を下回る」というのは「４人以下」ということになる。ただ、「４人」であったとしても、「５年で統合の話がまとまるのか」という点に不安があるということである。 **【委員】** 　小学校に入学するのが６歳の時なので、「間に合うかどうか」ということよりも「まだ生まれていないので判断できない」ということだと思われる。 **【委員】** 　出生届を見て判断するのではないのか。 **【委員】** 　その時点から６年後に入学することになる。先ほど「10 年前」と言ってしまったが、10 年前に検討を始めることは不可能だと考える。 **【会長】** 　入学時に間に合わなかったとしても、その子たちが６年生になるまで何の検討もしないまま放っておくことはないと考える。そういう意味では、ケース③において５人のまま６年生になるという想定自体が成立しないのではないかと考える。机上では成立すると思うが、複式になった段階で一度協議しているということに加え、この学年は大丈夫でも次の学年で５人を下回る可能性がある。 **【委員】**

	出生数が５人でも、私立の小学校に進学したり市外に引っ越したりするケースも考えられる。 **【委員】** ５人という状況になってくると今後は更に減ることが予想されるため、５人で検討を始めるのでは遅いのではないか。 **【会長】** ケース③について、ルール上は考える必要があるが、ケース③に対応する新たなルールを作る必要があるのかということだと思う。細かいルールを作ることによって更にやりにくくなるのではないかと考える。「ケース③のような状況にならないために何をすればよいか」ということで、「複式になっている小学校において保護者との協議を継続していく」ということになるのではないかと考える。 **【事務局】** 中学校の人数として、「１小１中」の場合は 30 人で検討するにもかかわらず「２小１中」では 10 人や 15 人でもよいのかということについて、検討していただきたいと考えており、「複数の小学校から集まる中学校でも、片方の小学校が複式学級になっている場合は検討を始める」という内容を「検討を始める基準」に追記している。 **【委員】** その場合には、ケース③の「Ｃ中学校」は「検討対象」になるということでよいか。 **【事務局】** この内容はあくまで事務局案として提示したものであり、この場で審議していただきたいと考えている。前回の審議内容から考えると「検討対象外」になるということである。 **【委員】** 数字で「対象」と「対象外」を決めるのは危ういと考える。 **【会長】** 小学校では「複式になった段階で協議する」と言っているため、「対象外」とは言いづらく「検討中」ということになり、「検討中」のまま６年生まで上がっていくことは考えにくいと考える。ただ、もし「Ａ小学校」と「Ｂ小学校」が統合しない場合は中学校が「10 人」という状況になってしまうので、「その場合に独自に中学校の統合を検討するのかどうか」ということである。 **【委員】**

「１小１中」ということが前面に出過ぎていることが１つの要因ではないかと思う。本来であれば２点目の項目が先に来るべきで、特殊ケースとして「１小１中」の場合が挙げられると考える。ケース①は 30 人となっており、30 人いると１つの小学校から中学校に上がっても一定の社会性が築けると思う。ケース③の場合も極端なケースになっているが、これが８人と９人で 17 人という数字であれば受ける印象も変わる。１つの基準として具体的な数字は大事だと思うが、「小学校よりも多い人数の中で人間関係を育んでいくべき成長期において、一定数の人数を確保することが必要ではないか」ということが前提にあると考える。「社会性や人間関係を育むことができる人数であるかどうか」が第一で、「１小１中」については、その中での特殊ケースとして検討していくべきケースであるという位置づけができればよいのではないかと思う。

【委員】

表現の問題になるので自分なりに整理してみた。ケース①では、「Ａ小学校」が対象外で、「Ｃ中学校」は必ず検討対象になると思う。理由としては、「適正な学校規模」を外れたら検討対象になるのではないかと考える。ケース②で言うと、「Ａ小学校」は検討対象外、「Ｂ小学校」は検討対象、「Ｃ中学校」はこのままいけば検討対象外になる。ケース③では、「Ａ小学校」は検討対象、「Ｂ小学校」も検討対象、「Ｃ中学校」も１学年２学級以上という適正規模から考えると検討対象になると考える。そういう捉え方をしないと駄目ではないかと思う。

【会長】

事務局は最も答えを出しにくい場合を設定されていると思う。ケース①について「30 人いればよいのではないか」という意見もあったが、実は、中学校では「２学級以上」を「適正な学校規模」としている。その中で、１学級についても容認するという考えであるが、「１小１中」の場合は、多様な人間関係を築くという観点で考えると、容認できる範囲から外れるということだと考える。ケース②については、「Ａ小学校」と「Ｂ小学校」が統合する話になった時点で「Ｃ中学校」もケース①と同じ状況になるので、検討対象になるということである。

【委員】

この表記でいけば「Ｃ中学校」は対象外と書かざるを得ないと考える。

【会長】

対象外だが、もし「Ａ小学校」と「Ｂ小学校」が統合することになれば検討対象となる。ケース③については、「Ａ小学校」と「Ｂ小学校」は対象外となっているが、複式になった段階で協議を続けるということであれば、「Ａ小学校」と「Ｂ小学校」の検討を進める中で当然「Ｃ中学校」も検討せざるを得な

	くなるということになる。もし中学校においても人数の基準が必要ということであれば改めて審議する必要があるが、これまでの話を踏まえると、ケース③の場合については、既に決めたルールで何らかの変化が及ぼされているのではないかと考える。 **【委員】** 結局、「適正な学校規模」をどれだけ重視するかということだと思う。小学校では「１学年１～２学級」、中学校では「１学年２学級以上」を適正規模と考えた場合は検討対象になり得ると考える。 **【委員】** 「適正な学校規模」については、はっきりと規模が分かるが、「適正化について検討を始める基準」については、「複式学級になった時点」と「５人を下回った時点」が一緒になって議論されている気がする。複式学級になった時点で検討を始めてもよいのではないかと考える。 **【会長】** 「複式学級が生じる見込みとなった段階で保護者や学校の意向を確認する」となっているが、この段階で「検討を始める」ということにし、「現時点において学年で５人を下回っている場合には至急検討を始める」という形になるのではないかと思う。 **【委員】** 何人であったとしても「検討を始めてからすぐに適正な規模にできるのか」という点が気になっている。検討を始めてもなかなか前に進まないこともあるので、そうなった場合のスピードを重視していただきたい。私は、複式学級については賛成だが、５人を下回ったときに課題が生じるということであれば、もっと早い段階で、例えば「複式学級になり得る８人以下になった場合には検討を始める」という形にした方がよいと思う。 **【会長】** 小学校では「複式学級が生じる見込みとなった段階で保護者や学校の意向を確認して検討を始める」という形で、毎年意向を伺いながら検討を進め、５人を下回る状況になった段階には「諦めていただくしかない」という意味で、上下の書き方を逆にする。また、中学校では「２学級以上」を「適正な学校規模」とした上で１学級の場合を暫定的に容認している状況にあり、その中で問題と考えているのが１つの小学校から上がるケースである。ただし、上がってくる小学校が統合等の検討に入っているケースについても検討を始めるという形にしてはどうか。 **【事務局】**

	「５人」という数字が残っていると、５人になるまで検討が進まないことが考えられる。 **【会長】** 「複式学級になると統合しなければならない」ということになると困る中で、最後の歯止めとして「５人」という数字を設定するという意味であり、５人になるまで放っておくわけではない。 **【事務局】** 地域に入ったときに「まだ５人になっていないので残してほしい」という議論になってしまうことが懸念される。 **【委員】** 「複式が生じたときにまず検討し、５人を下回るときにはすぐに取り組む」ということではないか。 **【事務局】** 検討を始めたときに、「出生数が５人になるまでは残しておいてほしい」という話になると考えられる。 **【会長】** それはあると思うが、「５人」という数字を取ってしまうと「複式になると必ず統合しなければならない」という話になる。そこに話し合う余地を残すのであれば、歯止めとなる基準を設けておかないと、「１人になるまで残しておく」ということになりかねない。 **【委員】** これまで統合した学校について、最終的に統合を決めたのは誰か。最終決定するのが教育委員会であるなら、「５人」という人数を決めることにあまり意味はなく、「検討を始める時期がいつになるか」ということだけでよいと思う。デッドラインを決めるのが教育委員会なら、そこに私たちが意見を出す必要がないのではないかと思う。専門家である教育委員会が話し合って最終決定することについては、私は悪くないと考える。検討を始める時期としては、複式になることが保護者にとって一番ハードルが高いので、複式になった時点で検討を始めるという考え方がよいと考える。 **【事務局】** 最終的な決定については、審議会から答申を受けた上で教育委員会が方針を出し、その中で統合という話になれば、その方向で進めることとなる。ただ、その際に大事なこととして、「教育委員会で決めたことは決定事項であるため意見は聞かない」ということではなく、保護者や地域の人の理解を得て進める必要があると考えている。

	【委員】 全員言っていることは同じであり、文章の書き方だと思う。例えば、「８人以下で検討を始め、５人以下になると至急統合の協議を開始する」といった形で、分かりやすい書き方を考えていただきたい。 **【委員】** 「検討を始める基準」は単なる時期だと思う。「適正な学校規模」の中に「最低限必要と考える規模」がないため、「複式」なのか「５人」なのか分からなくなっているだけだと考える。「最低限必要と考える規模は５人である」ということを「適正な学校規模」の中で書けばよいのではないか。 **【会長】** 「５人」という数字を基準として示すのではなく、「５人は容認できない」ということを「適正な学校規模」の基本的な考え方の中に書くことも考えられる。ただ、この後で審議する予定の「小規模な学校でも認める場合」との兼ね合いもあり、５人を下回っても残さなければいけない場合も出てくるため、「容認できない」と書くと、「そのような状態の学校を存続させるのか」という話になってしまう。小規模校を存続する場合として、「５人を下回る場合は小規模校として存続させないが、以下の場合においては…」という形で書いておく方がよいのではないかと考える。「検討を始める基準」の中に「５人」と「複式」の両方があることが分かりづらいということであれば、検討を始める基準は「複式になった段階」で、最終通告をするラインは別の箇所に書くということである。 **【委員】** 南野上小学校も複式になっているが、保護者からマイナス面での話は出ていない。昨年、学力面についての意見が出たが、それ以外に複式によるマイナス面の話は聞いていないため、うまく運営できているのではないかと思う。 **【委員】** 私も「複式だから悪い」という認識はない。ここに書かれている「複式学級が生じる見込みとなった段階」というのは、「学校の人数が右肩下がりにどんどん減っていく時期に来た」という意味で考えればよいと思う。複式には複式の良さがあるため、複式になった時点では学校運営としてはまだ大丈夫だと思うが、複式という局面は、この先、人数が先細りになっていく１つの段階と捉えればよいと思う。 **【会長】** 複式学級の状態が続き、その状態に慣れると、複式であることが問題視されることがなくなる。ただ、学習面においては様々な意見が出てくるということで、「グループで学び合う中で人数的に課題があるのではないか」という意見を聞くようになることも事実である。複式になった時点で、今後も人数が減っ

	ていくことが見通せる場合は、今後の在り方について検討する機会であると考える。8人程度の状態をずっと保つことができればよいが、今後も減っていくという状況であれば、保護者に状況を説明した上で検討するという形で、「5人になるまではよい」という議論にならないように進める必要があるのではないかと考える。「5人」という数字は出さなくてもよいかもしれないが、現時点においては、そういった考え方が浸透していないため、現状でそういう状態にある学校について検討するために「5人」という数字を出しているということである。「検討を始める基準」については、「複式になったときに今後のことも踏まえて検討を始める」という形にし、別の箇所で、「現在5人を下回っている学校はすぐに検討する」ということを書き込むことも考えられる。 **【委員】** 「検討を始める基準」は分かりやすい方がよいので、例えば「在籍人数が1桁の学年が出現すれば検討を始める」という程度でよいのではないか。 **【委員】** 現実問題として、保護者が最初に考えるきっかけとしては、複式ができたときである。そして完全複式になったときには教育委員会と協議しているはずである。そういう時期には地域や学校、ＰＴＡが必ず話をするので、そこに教育委員会から指導に来ることで話が進みやすくなるのではないかと思う。地域が反対する力は強いが、完全複式になったときには考え方も変わると思う。 **【委員】** 検討を始めるのは1桁になった段階でよいが、やはり間に合っていない感じがする。悠長なことを言っている間に状況が変わってしまうため、後手後手に回っている。今、話をしたことも5年経てば何の話か分からなくなる可能性もあり、ここで決めたことが足かせになって次のことを決められない可能性もある。私はその点を懸念している。 **【事務局】** 教育委員会ではこれまでも小・中学校の統合に取り組んできたが、その中では大きな反対もあった。教育委員会としては、反対があったとしても、方針を決めた以上はできるだけ早く進めていくということで取り組んできた。今日頂いた意見も「積極的に進めていかないと時代の流れについていけない」という意見として受け止めたいと考えており、今後、教育委員会で方針を決める際には、そういった意見を十分に反映させていただきたいと考えている。 表記の方法については、持ち帰らせていただき、次回の審議会で再度議論していただきたいと考えている。 **【会長】**

	「適正な学校規模」については、この内容でよいということで、「検討を始める基準」については、本日の意見を踏まえて私と事務局で検討し、次回提案させていただく。